

学部長挨拶

■ 新入生の皆さんへ ABILITY と COMPETENCE



徳島大学薬学部長

大高 章

Akira Otaka

新入生の皆さん、徳島大学薬学部へのご入学おめでとうございます。本冊子がお手元に届くころには、大学生活にも慣れ、勉学そしてサークル活動も軌道に乗り始める時期だと思います。さて、薬学部へ入学された感想はどうでしょうか？高校の延長とを感じる人、あるいは大学における勉強は自主性が求められるため、大きな違いを感じている人、それぞれかと思えます。さて、皆さんは学部における勉学の後、人によっては大学院における研究活動を経て社会に旅立つこととなります。旅立つまでの準備期間に、皆さんに身に着けていただきたいことについて書かせていただきます。

ABILITY と COMPETENCE という言葉、共に日本語に訳せば能力という意味です。その違いがわかるでしょ

うか。ABILITY を磨くことは当然ですが、将来 COMPETENCE を磨けるようその素地を作る努力をして下さい。ABILITY は「立派に成し遂げる先天的後天的な力を表す一般的な能力」、一方 COMPETENCE は「あることを達成するのに人を凌ぎ最善を尽くす力量の能力」を表します。「単に英語を話す能力」は ABILITY、「英語を活用して大きな仕事を成し遂げる能力」は COMPETENCE に分類されます。また ABILITY を「一人で何かできる能力」、COMPETENCE を「誰かと何かを成し遂げる能力」とする場合もあるようです。いずれにしても、COMPETENCE の方が、競争に打ち勝ち、より高みを目指すことが要求されます。これは COMPETENCE が COMPETE を語源とすることからも窺い知ることが出来ます。

例えば、ABILITY である英語を話す能力は、各人の努力で獲得できます。試験でよい点を取ることも然りです。これからしばらくの間、皆さんは ABILITY を磨くことに精進されると思います。しかし、より高いところを目指すには ABILITY だけでなく、COMPETENCE が不可欠であることを心に留めて置いて下さい。学業成績は良かったのに、実社会ではもう

ひとつという人がいます。それとは逆に、成績は良くなかったのに、大活躍している人もいます。前者は高い ABILITY を COMPETENCE に統合昇華しきれなかった人、後者は個々の ABILITY はそれほどでもなかったが、巧みに COMPETENCE に統合昇華できた人というように見ることが出来るかもしれません。このように書くと、成績は二の次で、世の中渡り方だという人がいるかもしれませんが、最高の COMPETENCE は、素晴らしい ABILITY の統合の上に成り立つことは忘れないで下さい。

さまざまな分野に興味を持つこと、物事を俯瞰的かつ統合的に見ること、そして何より、各個人の様々な ABILITY のみならず、異なった得意分野を持つ周りの人を巻き込み、これらを COMPETENCE にすることが必要です。卒業後実社会で生き残るためには、ABILITY を磨くための勉学、COMPETENCE に繋げるための俯瞰力、統合力そして人間力の向上、すべてが欠かせません。これからの大学生活を通じて、皆さんの成長を期待する次第です。

大学間連携

■ 6大学7薬学部による連携協定締結について



医薬品機能生化学 教授

土屋浩一郎

Koichiro Tsuchiya

徳島大学薬学部、徳島文理大学薬学部、徳島文理大学香川薬学部、松山大学薬学部は平成24年度の大学間連携共同教育推進事業に「四国の全薬学部の連携・共同による薬学教育改革」で採択され、課題発見能力と高度な問題解決能力を有する薬学系医療人・研究者の養成のための学士課

程・大学院教育の質保証と、四国特有の地域課題解決策を目指す薬学教育改革について地域のステークホルダーと共に取り組んできました。

平成26年度に行われた中間評価の総括評価はA（計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる）でしたが、『今後、四国地域以外の地域との連携を視野に入れることが期待される。』と意見が付されました。

そこで各大学の事業推進委員が協議した結果、同じく薬剤師養成教育で平成24年度に「実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム」（千葉大学薬学部・千葉科学大学薬学部・城西国際大学薬学部）で同事業に採択された千葉県の3薬学部の取組と連携することが更なる事業の発展に最

適であると考え、協定書の作成に着手し、平成28年3月23日、徳島文理大学薬学部で6大学7薬学部の代表者が集まり連携協定を締結いたしました。

新たな6大学7薬学部の協定では、社会の要請に応える薬剤師養成のための共同教育システムを構築するとともに薬学教育の質の向上を目的として大学間の連携を積極的に推進することを宣言し、具体的な連携内容として（1）講演会、学生の研究発表会の共同開催、（2）教員、学生の相互交流、および（3）共同授業、へき地医療、災害対応薬剤師養成、在宅医療等の意見交換を進めてまいります。

本連携協定は国立私立の設置形態を超え、また西日本と東日本という地域を越えた相互連携である点からも注目を集めています。今後の本事業へのご支援をよろしくお願いします。

■ 国公立大学の連携について



臨床薬学実務教育学 教授

川添和義

Kazuyoshi Kawazoe

「健康長寿社会」を目指すわが国において、さまざまなニーズに応えることのできる薬剤師の養成が現在急務となっています。その中で国公立大学の果たす役割は大きく、先進的な薬剤師を育てる新しい教育の構築が期待されています。

この度、大阪大学を中心に国公立17大学で申請していた文部科学省特別経費「高度先進的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」（平成28～33年度）が採択されました。これは、平成27年度までのプロジェクト「先進的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」の後を引き継ぐ形で採択されたもので、これまでは薬剤師養成教育の高度化・実質化、先端医療薬学を主導する博士力の習得プログラム開発により先進的な薬剤師の輩出を目指してきましたが、今後はその活躍の場を地域・国際に拡げて今後の医療のダイナミックな変化に的確に対応し、先進的な医療の提供、包括的な創薬研究や高度な保健衛生において指導的な

立場で活躍できる高度先進的薬剤師の養成しようというものです。今後、高度医療人キャリア形成教育研究推進や地域薬学人材養成教育拠点形成、国際医療薬学教育研究推進などのプログラムを大学間で構築していくことになっています。

薬剤師の職能拡大とともにさらに新しいステージへの教育が求められていますが、徳島大学薬学部もその一翼を担い、他の国公立大学と協働してこれからの先進的薬剤師養成を牽引していく駆動力となることが期待されています。



研究紹介

海洋性糸状菌の二次代謝産物



総合薬学研究推進学分野 准教授

大井 高

Takashi Ooi

筆者の研究室では海藻、海綿や軟サンゴなどの海洋生物を採集して成分研究を行っています。10年ほど前からは海洋性糸状菌（カビ）の成分研究も行うようになりました。ここでは海洋性糸状菌から得られた二次代謝産物について紹介いたします。

海洋は、地球表面の70%以上を占め、海洋に棲息する生物は多様な環境に適応し極めて多様な生物群集を形成しています。海洋生物は量的に膨大で、さらに「種」も極めて多いのです。海洋生物は共生・寄生微生物を含むものが多く、ある種の海綿では含まれる微細藻類や細菌、糸状菌などが海綿そのものの細胞重量よりも多いこともあります。また固着生物の多くはいわゆるフィルターフィーダーで海水中に漂う微生物や有機物を濾しとって食料とし、その成分を生体濃縮します。つまり同一種の生物であっても採集場所や季節、採集年によって含まれる成分が異なることが多いのです。以前、活性のあった種類の生物をあらためて同じ場所で同じ季節に大量に採集できて喜んでいたら、不幸にも全く活性がなかったということも度々起こりま

す。

採集した海洋生物からの有用物質の探索方法は生薬成分など陸上生物のそれと大差はありません。溶媒で成分を抽出し適当なスクリーニングを行って医薬素材として有望そうな化合物の有無を確認し各種クロマトグラフィーによって分離を行い、得られた化合物はNMRや質量分析などの機器分析によって構造の確認を行います。採集してきた生物から微量しか得られない化合物の扱いには気を使います。そのサンプルがなくなったら二度と入手できなくなるかもしれません。

海洋性糸状菌（Marine-derived fungi）は海洋より得られたカビの仲間でも比較的容易です。糸状菌なら興味深い化合物が得られても構造研究や生物検定にサンプル量が不足する場合、再度大量培養を行えばなんとかなります。共同研究者等から譲り受けた糸状菌を培養し成分研究を行いました（図-1）。ある種の海洋性糸状菌から興味深い含塩素化合物が得られていましたが、含臭素化合物を得ようと企て培地の塩素のほとんどを臭素に置換して培養を行ってみたところ、意に反して含臭素化合物は全く得られず、代わりに全く構造の異なる新規なマクロライド化合物が得られるという興味深い結果を得ました。各種波長のLEDを光ストレスとして照射しながら培養して成分変化も検討しています（図-2）。海洋に限らず微生物は培地組成、温度、通気などの培養条件を変えると異なる代謝産物を産生するようになります。これを利用したOSMAC（one strain – many compounds）approachによって微生物の可能性を引き出し、真に有用な化合物を作らせ

ようとする試みが行われています。遺伝子的な解析から成分を推定する方法も発展してきましたが共生微生物の代謝産物からの医薬品開発などについてもこの辺りが鍵となってくるものと思います。

海洋性糸状菌の成分研究は非常に有用です。残念なことは沖縄や四国各地の海への生物採集旅行が減ってしまったことでしょうか。

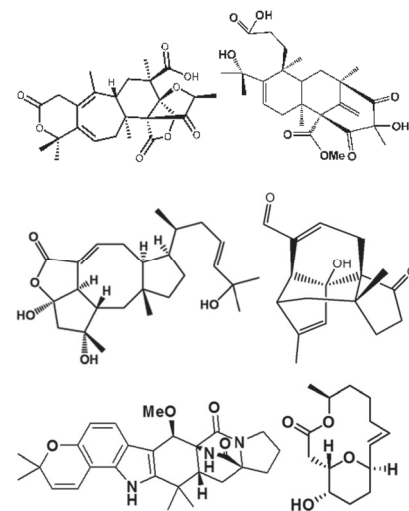


図-1 海洋糸状菌の二次代謝産物

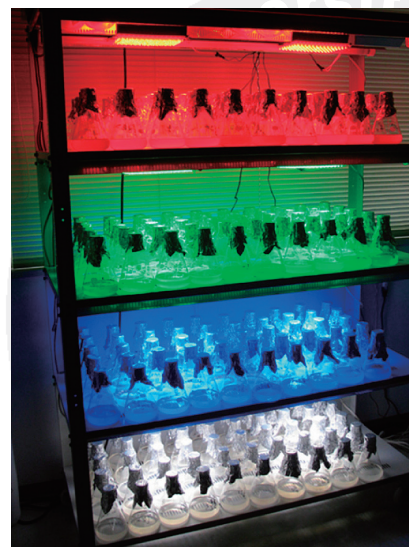
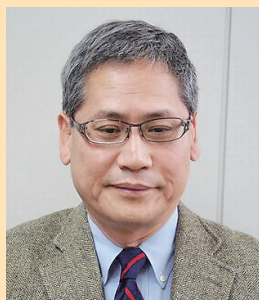


図-2 LED照射下での糸状菌培養

退任教員挨拶



創薬理論化学分野 教授

中馬 寛

Hiroshi Chuman

徳島に来てから19年、その前は化学企業で19年間の勤務、東京と徳島、産と学で半々となる。

定年とは社会生物学的「新陳代謝」、文化人類学的には「理にかなった掟」であろう。小生のこれまでの人生と徳島での教育・研究経験を通して強く実感していることが一つある。この二つを的確に表現しているのは Steve Jobs の Stanford 大学の卒業式でのスピーチ（下記にその一部を抜粋）と小生の同級生で仏文学者・武道家の内田 樹 君のブログかもしれない。

It clears out the old to make way for the new. Right now the new is you, but someday not too long from now, you will gradually become the old and be cleared away.

Your time is limited, so don't waste it living someone else's life. And most important, have the courage to follow your heart and intuition. They somehow already know what you truly want to become.

学生（広い意味で、教え（教育）を受ける側）はその時点では受けている教育の意味や目的を明確に語ることはできないが、彼の *heart* と *intuition* は自分が何になりたいか、何をしたいかをおぼろげながらもすでに知っている。教師（mentor）の役割はまだ見ぬ景色への入り口の扉を学生が開けるまでを見守ることであろう。どの扉を開けるかは学生の *heart* と *intuition* に依って異なる。学生は扉を開けて新しい道を迷いながらも進んでいくとまた新たな mentor が現れる。この繰り返しである。教育の意味や目的、その効果は人生のこのような過程を振り返ったとき（*connecting the dots*）、初めて理解できる回顧的なものであろう。

徒然なるままに記した駄文で失礼いたしました。最後に徳島大学薬学部益々の発展を祈念して、お別れの挨拶とさせていただきます。



新任教員紹介



衛生薬学分野 教授

小暮健太郎

Kentaro Kogure

平成28年1月1日付で、衛生薬学分野の教授を拝命しました。

私は、平成6年に本学大学院薬学研究科（生物薬品化学教室：寺田 弘 教授）を修了し、博士（薬学）の学位取得後に、富山医科薬科大学薬学部薬剤設計学分野（上野雅晴 教授）助手（平成6年～10年）、徳島大学薬学部衛生化学教室（福澤健治 教授）助手（平成10年～15年）、北海道大学大学院薬学研究科博士研究員（薬剤分子設計学分野：原島秀吉 教授）・寄附講座特任講師（平成15年～19年）、京都薬科大学薬品物理化学分野教授（平成19年～平成27年）を経て、本年1月に現在の衛生薬学分野に着任いたしました。一貫して、生体膜を反応の場とする生理活性物質の作用機構解析と膜をベースとする構造体の開発に携わってきました。他方、最近では微弱電流刺激による組織・細胞生理の変化と、

それによる物質の組織内浸透と細胞内送達に着目して検討を行っています。

平成15年に徳島大学を離れてから13年弱経過して再び母校に戻ったわけですが、その間、薬学部を取り巻く環境は大きく変化し、特に国立大学薬学部にとっては厳しい状況になっていることを実感しております。前述しましたように、複数の大学でいろいろな経験をさせていただいており、特に完全6年制である私立単科大学（京都薬科大学）で教育・研究および大学運営に従事させていただいた経験は貴重であったと思います。微力ではございますが、私のこれまでの経験と知識を、徳島大学薬学部発展のために活かすことができればと思っております。皆様のご指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新任教員紹介



薬物動態制御学分野 准教授

異島 優

Yu Ishima

平成28年4月1日付けで、薬物動態制御学分野（石田竜弘 教授）の准教授として着任いたしました異島 優と申します。

私は平成14年に熊本大学薬学部を卒業後、同大学大学院薬学研究科薬剤学研究室（小田切優樹 教授）に所属し、平成19年に学位を取得しました。その後、同大学薬学部医薬高分子学（甲斐俊哉 教授）にて特任助教を4年間、米国ピッツバーグ大学医学部（Bruce Freeman 教授）にて博士研究員を1年間、その後、熊本大学薬学部・薬剤学（丸山 徹 教授）の助教を5年間務めさせて頂き、現在に至ります。

これまで私は主に血清タンパク質に関する動態学的・創薬学的研究を続けて参りました。本学では、ほとんど研究経験のないリポソームを用いたドラッグデリバリーシステム（DDS）の研究に携わりながら、これまでの血清タンパク質を用いたDDS研究の経験を生かして、新規的かつ独創的な研究を展開できればと考えております。

留学以外では今回初めて熊本の地を離れ

ることになり、不安を抱えながらも家族共々徳島の地へやって参りました。徳島の新しい小学校や幼稚園に通う我が子が、まだ1ヶ月も経たないうちから、すでに熊本弁から徳島弁（関西弁？）に変わりつつあり、子供の順応性の高さに驚かされる毎日です。一方で私は、徳島の美味しい阿波尾鶏やお酒にすでに虜になっており、徳島の良さを日々実感しております。

甚だ微力ではございますが、新任地で心を新たに、徳島大学薬学部の一員として、研究および教育に一層精進する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。最後に、今回の熊本地震におきまして、徳島大学の皆様から頂いた心温まるお見舞いやご厚意に、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



生物有機化学分野 助教

田良島典子

Noriko Tarashima

平成28年4月1日付けで、生物有機化学分野の助教に着任致しました田良島典子（たらしま のりこ）と申します。

私は本学薬学部薬学科を卒業（薬剤師免許取得）後、本学大学院薬科学教育部創薬科学専攻 博士前期課程へと進学しました。博士前期課程修了後は約2年間に渡り、塩野義製薬 CMC 研究所での勤務を経験しております。製薬企業での社会人経験は決して長いものではありませんでしたが、薬学部卒業生だからこそ活躍出来る場が数多くあることを知り、とても良い経験となりました。

その後、本学大学院薬科学教育部創薬科学専攻 博士後期課程（日本学術振興会 特別研究員 DC1）へと再入学し、核酸分子を題材とした創薬化学研究を通して、本年3月に無事、博士号（薬学）を取得することが出来ました。その間、博士後期課程2年次に本学薬学部の諸先生方の多大なるご支援により大きなチャンス頂き、総合薬学研究推進学分野 特任助教として研究者

としてのキャリアをスタートさせ、この度、本学薬学部 生物有機化学分野にて助教を務めさせて頂く運びとなりました。

まだまだ未熟ではありますが、自身を大きく成長させてくれた母校で、教育・研究活動に従事出来るということは大変嬉しく、学生達に寄り添い、ともに精進して行きたいと考えております。私が薬学生であった頃とは異なり薬剤師免許6年制となり、卒業後の進路選択には大きな決断を迫られる中ではありますが、理系分野ながら女子学生が数多く在籍する薬学部において、世界へ大きく羽ばたいていく人材を育てるべく力を尽くして参りますので、今後ともご指導、ご便達を賜りますようお願い申し上げます。



国際交流

東國大学校薬学大学との学術交流



薬物治療学分野 准教授 分析科学分野 准教授

山崎尚志 竹内政樹

Naoshi Yamazaki Masaki Takeuchi

平成27年12月14日(月)から16日(水)までの3日間、韓国の東國大学校薬学大学(College of Pharmacy, Dongguk University)を山崎尚志准教授と竹内が訪問しました。薬学大学(薬学部)のキャンパスは、ソウル特別市の北西に隣接するコヤン(Goyang)市にあります。キャンパス周辺には高層マンションが並

び、現在も都市開発が進められているようでした。12月の平均気温は氷点下に達する日もあるようですが、我々が訪問した3日間は比較的暖かく過ごしやすい日が続きました。

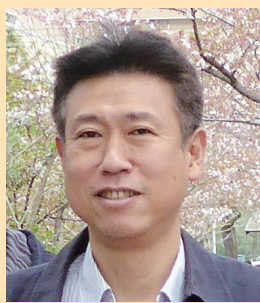
訪問2日目に学術セミナーが開催され、試験期間中にもかかわらず多くの学生が我々の講演を聴講してくれました。山崎准教授は、ご自身の研究内容とともに、徳島県をソウル特別市と比較しながら紹介されました。随所に韓国語を交えたご講演は大変好評でした。この日の夕刻には、Kyenghee Kwon 学部長、徳島大学薬学部と親交の深い Moon Woo Chun 先生らと交えた親睦会が設けられました。マッコリを片手に韓国の伝統料理をいただきながら、薬学部、薬学生についての情報を交換し合い、東國大学校と徳島大学の両薬学部の現状がとても似ていることに気がつきました。

今回の訪問では、昨年の秋に徳島大学薬学部を訪問された Choongoho Lee 先生と Chang-Hoon Lee 先生にお世話になりました。お二人とも苗字は“Lee”です。東國大学校薬学大学には、現在5人の Lee 先生がおられるそうです。韓国では同じ苗字が多いため、フルネームで呼び合っているとのことでした。最後になりましたが、大高学部長をはじめ、訪問日程等を調整していただいた佐野教授ならびに薬学部事務室の皆様へ感謝申し上げます。(竹内政樹)



親睦会にて

韓国・徳島大学薬学部交流シンポジウム



医薬品情報学分野 准教授

佐藤陽一

Youichi Sato

平成28年2月17日に第2回韓国・徳島大学薬学部交流シンポジウムが開催されました。来日された韓国薬学部生10名は、韓国薬剤師会の推薦により、大韓薬剤師会主催の Pharm Young Leader Academy (PYLA) で大塚賞を受賞した優秀な薬学生です。両国の薬学生間の交流を通

じて、相互の薬学分野における違いを理解するとともに、国際的に活躍できる人材育成を効果的に進めることを目的とし、大塚製薬(株)のご提案により開催されました。

シンポジウムの開催前に、韓国薬学部生は徳島大学病院薬剤部を見学され、韓国との違いを把握できたことが良かった様です。また、シンポジウムでは、第1部として「両国薬剤師の役割：現状と将来展望」について、徳島大学からは佐藤智恵美先生が、韓国薬学部生からは BAK, SOHYEON さんが発表しました。第2部では、「将来の志望(夢)を実現するためにやるべきことは何か」というテーマについて、徳島大学からは山本清威君、傳田将也君の2名が、韓国薬学部

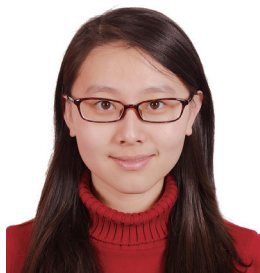
生からは4名が発表しました。今回の発表は全て英語で行われました。その後のパネルディスカッションでは日本の薬局薬剤師数は増加しているのに対し、病院薬剤師数は増加していないのは何故か？韓国では重複投与の防止策としてオンラインが使用されているが、日本ではそのような対応はされていないのか？など韓国学生から活発な質問がありました。また日本と韓国の薬学教育の違いに驚きがあった様です。



シンポジウム参加者の集合写真

学生の活躍

国際学会「IAGG Asia/Oceania 2015」に参加して



医薬品機能生化学分野
大学院薬科学教育部博士後期課程2年

許 文婷

Xu Wenting

2015年10月19日から22日までの4日間、タイ王国のチェンマイで開催された「10th International Association of Gerontology and Geriatrics」に参加させていただき、ポスター発表を行いました。本学会は老年学と老年医学に関するアジアおよ

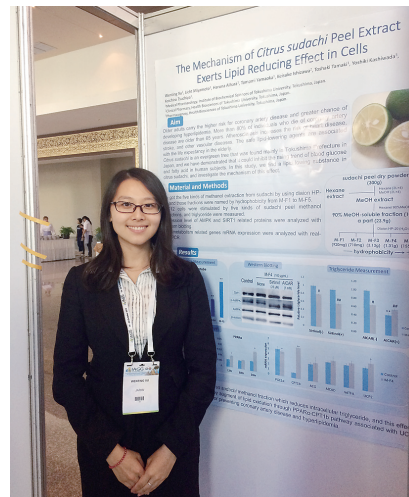
びオセアニアの国際会議ですが、アメリカやヨーロッパからの研究者も数多く参加していました。

今回、私は「The Mechanism of *Citrus sudachi* Peel Extract Exerts Lipid Reducing Effect in Cells」というポスター発表に採択されました。初めての国際学会での発表で緊張しましたが、ポスター会場で私は様々な研究者に研究成果を説明して、世界中の多くの人達とディスカッションをすることができました。ポスター発表の時だけではなく、休憩時間などを利用して海外の学生とも交流することができました。

本学会は老年学と老年医学の発表演題が非常に多く、講演会を聞いて視野をひろげることができました。今回の国際学会に参加することにより、いろいろな情報を収集して、今後の研究や学内外での活動に活かすことのでき

る、貴重な経験となりました。

最後になりましたが、国際学会発表の旅費支援を頂きました大高章葉学部長、国際学会での発表の機会を与えて下さいました医薬品機能生化学分野 土屋浩一郎教授をはじめ、関係の諸先生方に心よりお礼申し上げます。



薬学部3年 薬学部硬式テニス部

浜田 麻衣

Mai Hamada

薬学部硬式テニス部です。私たちは1年生16人、2年生6人、3年生13人の計35人で週2回の練習に取り組んでいます。初心者から経験者まで所属しており、個性豊かなメンバーで楽しく活動しています。もちろんテニスだけでなく、新歓、キャンプ

など様々なイベントがあり、先輩、後輩の仲も良好です。また、顧問の先生や卒業されたOBの方も練習やOB戦に訪れてくださり、縦のつながりも強い部活となっています。

硬式テニス部の一大イベントはなんといっても夏休みにある関西薬学生連盟硬式庭球大会です。これは10日間にも渡る大きな大会で、3年生はこの大会で引退となります。私は1、2年のときに先輩たちの試合を間近に見て、もっと上達したいと思いました。この大会を目標とし、部員全員で丸一となって練習に励んでいます。

私は中学で吹奏楽部、高校で帰宅部だったので、大学では何か運動をしたと考えていました。そのうえ、友達からの誘いもあり、硬式テニス部に入部することを決めました。体力のない私には練習がきつくてつらいと思うことも

多々ありますが、部活のみんなと一緒にいる時間はとても楽しいので、今では硬式テニス部に入部して良かったと思っています。また、私は初心者だったため、分からないことも多かったけれど、先輩がラケットの持ち方から優しく教えて下さったので、今では上達してテニスを楽しんでいます。

意見の違いから人間関係に悩むこともありましたが、部活ならではの良い経験となりました。これからも先輩、後輩、同期たちと一緒に硬式テニス部の一員としてがんばっていきたいと思います。



サークル紹介

薬学部関連ニュース

教員の異動

平成27年12月31日付退職 製剤分子設計学 齋藤 博幸 教授
平成28年3月31日付退職 創薬理論化学 中馬 寛 教授



研究助成金等の採択について

研究者名：佐藤 陽一（医薬品情報学 准教授） / 助成団体名：一般財団法人 鈴木泌尿器医学振興財団
研究課題名：次世代センサーを用いた精子形成関連遺伝子の同定 / 助成金額：500,000円 / 採択決定日：平成28年3月1日

学会賞等受賞

【教員の受賞】

■ JFIA Selection Award

受賞者：竹内 政樹（分析科学 准教授）
田中 秀治（分析科学 教授）
受賞年月日：平成28年2月17日
表彰団体名：Journal of Flow Injection Analysis
受賞内容：Nafion Membrane Tube-based On-line Concentrator:
Application to Urinary Orotic Acid Determined
by Suppressed Ion Chromatography

■ BIファーマシストアワード2016優秀賞

受賞者：岡田 直人（臨床薬学実務教育学）
受賞年月日：平成28年3月6日
表彰団体名：日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社
受賞内容：抗 MRSA 薬を用いた治療に対する薬剤師のシームレスな介入がもたらす臨床効果及び医療経済効果

【学生の受賞】（学年は受賞時）

■ 優秀講演賞

受賞者：傳田 将也（D3）
受賞年月日：平成27年8月11日
表彰団体名：日本ペプチド学会 第47回若手ペプチド夏の勉強会
受賞内容：口頭発表「N-S アシル基転移反応を基盤とした in cell タンパク質ラベル化法の開発」

■ 優秀討論賞

受賞者：丸尾 慎之輔（B4）
受賞年月日：平成27年8月11日
表彰団体名：日本ペプチド学会 第47回若手ペプチド夏の勉強会
受賞内容：意見交換会における積極的な討論に貢献

■ 優秀演題賞

受賞者：大谷 知子（D2）
受賞年月日：平成27年10月25日
表彰団体名：第9回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2015
受賞内容：寝たきり高齢者における腎機能評価
～ Scr 補正の検証～

■ 第52回ペプチド討論会若手口頭発表優秀賞

受賞者：宮島 凜（M2）
受賞年月日：平成27年11月17日
表彰団体名：日本ペプチド学会
受賞内容：天然型アミノ酸配列に適用可能な新規ペプチドチオエステル化学合成法の開発

■ 第29回分子シミュレーション討論会学生優秀発表賞

受賞者：馬島 彬（D3）
受賞年月日：平成27年12月1日
表彰団体名：分子シミュレーション研究会
受賞内容：分子科学計算を用いた自由エネルギー変化の線形則に基づくトリプシンの触媒反応メカニズムの詳細解析

■ 学生発表奨励賞

○受賞者：森崎 巧也（M2）
受賞内容：SEAlide を利用した標的タンパク質精製ツール“トレーサブルリンカー”の開発研究
○受賞者：山岡 浩輔（B4）
受賞内容：多成分縮合を可能とする光応答型チオエステル等価体の開発
受賞年月日：平成28年1月30日
表彰団体名：日本薬学会中国四国支部

■ 徳島大学学生表彰

受賞者：宮島 凜（M2）
受賞年月日：平成28年3月8日
表彰団体名：徳島大学
受賞内容：研究活動の振興に功績

■ 日本薬学会第136年会 学生優秀発表者賞

○受賞者：日高 朋（B4）
受賞年月日：平成28年3月27日
表彰団体名：日本薬学会
受賞内容：トランスジェニックカイコ絹糸腺由来ヒトカテプシンAの分子特性と生物機能評価（口頭発表の部）
○受賞者：仲村 明人（M1）
受賞年月日：平成28年3月31日
表彰団体名：日本薬学会
受賞内容：環状酸無水物の不斉加メタノール分解を基盤とする cis-テトラヒドロフタラジノン誘導体の合成（ポスター発表の部）

発行：徳島大学
編集：薬学部広報委員会
広報委員：滝口祥令、難波康祐、植野 哲
佐藤陽一、阿部真治、北池秀次

URL：http://www.tokushima-u.ac.jp/ph
〒770-8505 徳島市庄町1丁目78-1
徳島大学医歯薬事務部薬学部総務課総務係
E-mail：isysoumu3k@tokushima-u.ac.jp

●皆様のご意見、ご要望、エッセイ、写真、絵画、漫画などご投稿を歓迎します。どしどしご応募くださいますようお願いいたします。次回の発行は、平成28年の12月頃を予定しております。